

# BeFine!

証券コード 6869

第45期

第3四半期株主通信

2011年4月1日～2011年12月31日



特集 | グローバル最前線

## 期待のアジア・パシフィック

詳細な財務情報は、シスメックスのIRウェブサイトをご覧ください。 [www.sysmex.co.jp/ir/](http://www.sysmex.co.jp/ir/)

□ 通期 ■ 第3四半期累計

## 売上高



日本を含む全所在地で増収となり、昨年度に比べて72.0億円増の969.1億円となりました。

## 営業利益



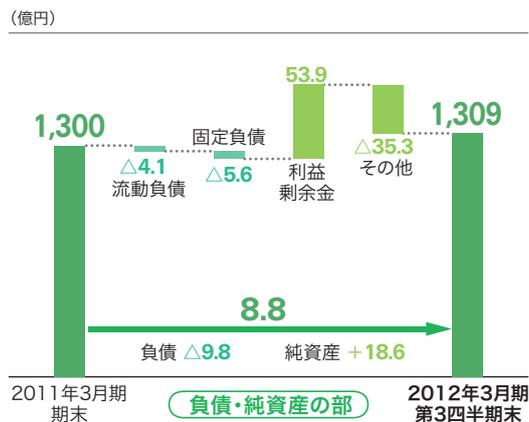
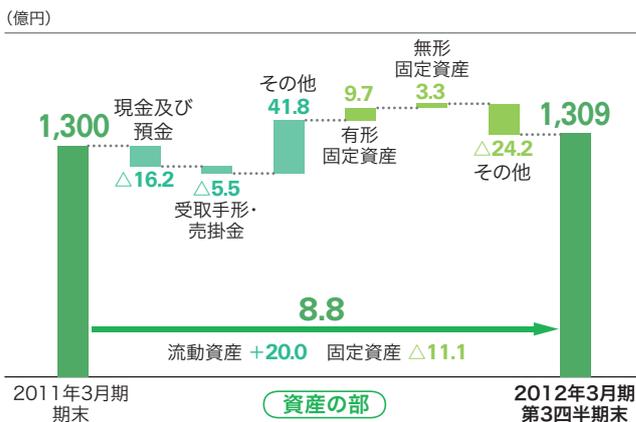
円高の影響などにより原価率が悪化したものの増収効果により、昨年度に比べて2.0億円増の136.5億円となりました。

## 四半期(当期)純利益

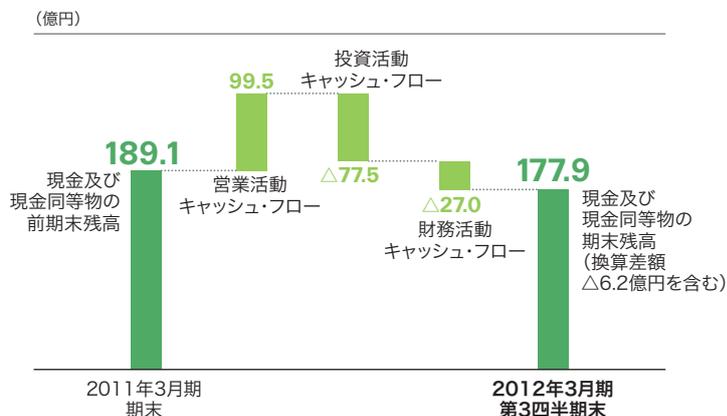


前年同期の資産除去債務の会計基準適用による特別損失が今期は減少したことなどから、昨年度に比べて5.5億円増の85.8億円となりました。

## ●貸借対照表の増減要因



## ●キャッシュ・フローの増減要因



## IRウェブサイトのご案内

シスメックス  
バーチャルツアーを  
公開中!



シスメックスの  
国内外の拠点を  
ご紹介!

ぜひご覧ください。

[www.sysmex.co.jp/ir/](http://www.sysmex.co.jp/ir/)

# 大幅な円高の影響を受けながらも 増収・増益を達成しました。

第45期  
第3四半期の  
ポイント

- ポイント ① 大幅な円高の影響を受けつつも国内・海外ともに増収を達成
- ポイント ② 円高の影響などにより、原価率が悪化するも増収効果により利益が増加

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、当社グループの2012年3月期第3四半期の業績は、大幅な円高による為替の影響を受けながらも、国内・海外ともに増収を達成しました。また、円高の影響などにより原価率が悪化しましたが、増収効果により利益が増加しました。売上高は日本を含む全所在地で増収となり前年同期比8.0%増、営業利益は同1.5%増、経常利益は同2.6%増、四半期純利益は同6.9%増となりました。なお、前年同期の為替レートを適用した場合、売上高は前年同期比11.8%増、営業利益は同18.4%増を達成したことになります。

海外は、販売・サービス&サポート体制の強化やソリューション提案\*を進めた結果、全ての所在地で増収を達成しました。特に中国、米州、欧州で大きく伸ばしています。このような海外事業の好調により、当社グループの海外売上高比率は71.9%となりました。

日本国内においても、ソリューション提案を引き続き推進した結果、大型案件の受注が好調に推移し、売上高は前年同期比2.2%増となりました。

当期の主な取り組みとして、当社の血球計数標準器\*が中国の血球計数検査の国家標準を定める標準器に採用されました。これにより、中国における当社のブランドイメージがさらに向上すると期待しています。

なお、通期業績予想につきましては、2011年11月発表の予想から変更はありません。

株主の皆様には、今後ともより一層のご支援を賜りますよう、よろしく願い申し上げます。



代表取締役社長

家次恒

いえつく ひさし

【出身地】大阪【略歴】大学を卒業後、銀行に13年間勤務。その後、東亜医用電子株式会社（現シスメックス株式会社）に入社。1996年、代表取締役社長に就任。【趣味】読書、ゴルフ、スポーツ観戦【信条】「意あらば通ず」

## ■2012年3月期通期業績予想

	(億円)	
	売上高	営業利益
2011年11月発表	1,340	185
2011年3月期実績	1,246	182

※下期想定為替レート：1USドル＝76円  
1ユーロ＝105円

## ■2012年3月期想定為替レート

	(円)	
	1USドル	1ユーロ
2012年2月発表	78.3	109.2
2011年3月期実績	85.7	113.1

※2012年3月期第3四半期実績レートを反映しています。

\*ソリューション提案：製品やサービス&サポートを組み合わせた提案によってお客様のニーズにお応えすること。

\*血球計数標準器：血球計数（赤血球数、白血球数）の値を決定する基準となる装置。

【所在地別セグメント】

内部売上高：関係会社への輸出など  
外部売上高：日本のほかに、韓国・アイデックス社向けなどの売上を含む。

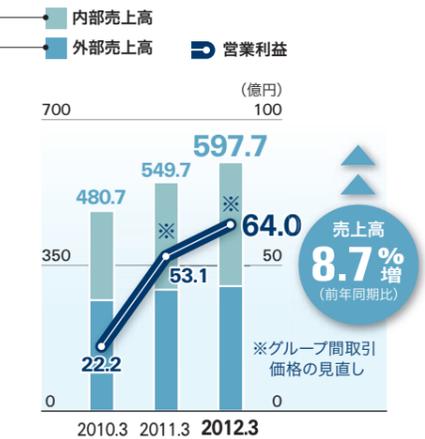
	2010年 3月期 第3四半期	2011年 3月期 第3四半期	2012年 3月期 第3四半期
1USDドル	93.6	86.8	79.0
1ユーロ	133.0	113.3	110.6

日本

- ソリューション提案\*を継続して推進し、売上が増加しました。
- 日本国内およびグループ関係会社(海外)への売上増加に加え、グループ間取引価格の見直しなどにより増益となりました。



多項目自動血球分析装置 XNシリーズ (XN-9000)

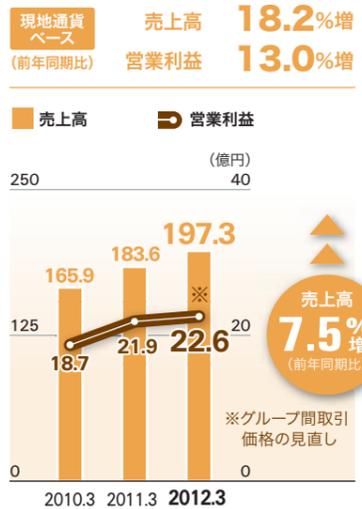


米州

- ヘマトロジー分野\*を中心に、北米、中南米ともに売上が好調に推移しました。
- シェア拡大に伴う増収効果により、グループ間取引価格の見直しや円高の影響などを補い、増益となりました。



シスメックス アメリカの試業工場 (シカゴ)



欧州

- 欧州経済減速の影響が一部あるものの、現地通貨ベースでは主要5カ国\*全てにおいて増収となりました。
- 増収効果により、事業体制の強化に伴う販売費及び一般管理費の増加を補い、増益となりました。

※イギリス、フランス、ドイツ、イタリア、スペイン



シスメックス フランス

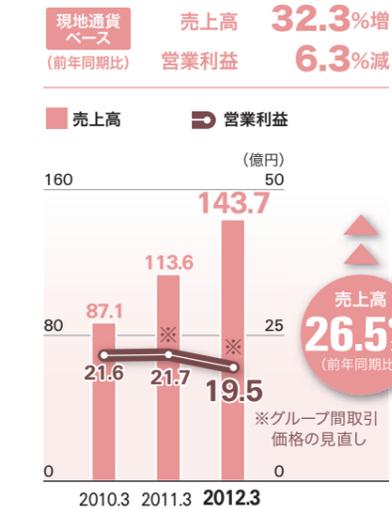


中国

- 医療需要の拡大により、ヘマトロジー分野、ノンヘマトロジー分野\*ともに大幅な増収を継続しています。
- グループ間取引価格の見直しや円高の影響により、営業利益は減少しました。



多項目自動血球分析装置 XSシリーズ

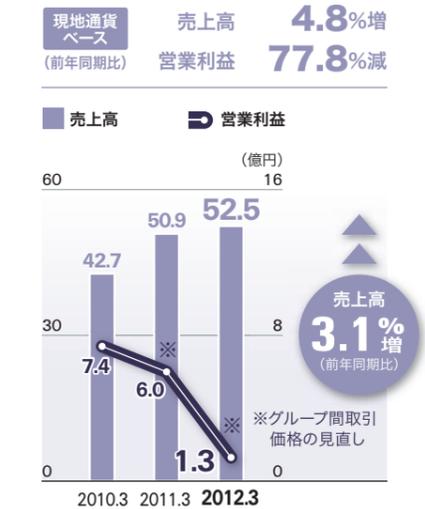


アジア・パシフィック

- インド、インドネシアを中心に増収となるも、マレーシアなどでは減収となり売上は微増となりました。
- グループ間取引価格の見直しや、販売費及び一般管理費の増加により、営業利益は減少しました。



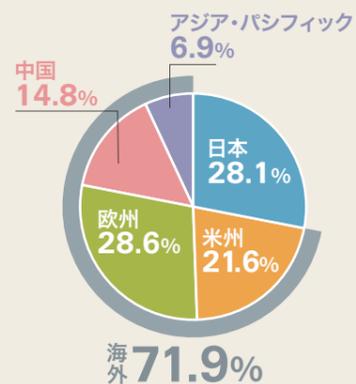
シスメックス インドネシア



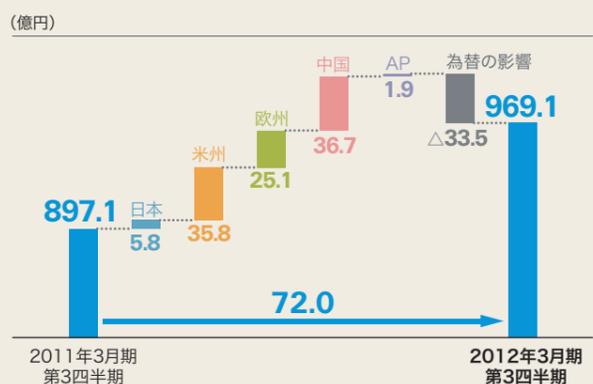
(注) 日本から韓国・モンゴルなどへの直接販売は、日本の外部売上高に含む。

【地域別セグメント】

●売上高構成比



●売上高の増減要因



Close UP! シスメックスの血球計数標準器が中国の国家標準として採用!

北京市医療器械検験所 (BIMT)\*において、中国の血球計数検査の国家標準を定める標準器に、当社の血球計数標準器が採用されました。これは、赤血球や白血球などの数を測定する血球計数検査の標準化に対する、当社の取り組みや実績が評価されたものです。他社製品も含め、今後は中国国内で販売予定の全ての血球計数装置の製品

登録検査が、BIMTに設置された当社の標準器をもとに行われます。これにより、日常の精度管理を含む全ての国家標準に当社の標準器が使われることになります。標準器の設置は、中国における血球計数検査の精度向上や検査の標準化に貢献するとともに、ブランドイメージの向上につながるものと期待されます。



標準器設置 除幕の様子 (右：社長の家次)

標準器とは、血球計数(赤血球数、白血球数)の値を決定する基準となる装置で、血球計数トレーサビリティの頂点に位置づけられるものです。

\*ソリューション提案: 製品やサービス&サポートなどを組み合わせた提案によってお客様のニーズにお応えすること。

\*ヘマトロジー分野: 血液中の赤血球や白血球などの数や種類、大きさを分析することにより、精密な検査が必要かどうかを判断するための検体検査分野。

\*ノンヘマトロジー分野: 血液凝固検査、免疫検査、尿検査、生化学検査などのヘマトロジー分野以外の検体検査分野。

\*北京市医療器械検験所 (BIMT): 中国の国家食品薬品监督管理局 (SFDA) の下部組織で、中国の医療機器などの登録検査を行う機関。

\*トレーサビリティ: 測定結果の精度を高めるために計測データの履歴が追跡できるようにすること。



# 期待のアジア・パシフィック

シスメックスの成長を牽引している海外地域をご紹介します「グローバル最前線」。  
第4回は、今後の成長が期待されるアジア・パシフィック地域をご紹介します。  
シスメックスは当地域において、ヘマトロジー分野\*でトップシェアを獲得し、  
着実に売上を伸ばしています。

医療に役立つ  
情報が喜ばれて  
いるのですね。

約600名の方々に  
ご参加いただきました。



フィリピンで開催された学術セミナー (2011年4月)

## ポイント1 10カ国で参加者1万人超！ 学術セミナーで医療レベルの向上に貢献

医療関係者を対象に1998年より行っている大規模な  
セミナーや講演会は、これまでに10カ国\*で約50回  
開催され、参加者数は延べ1万人を超えました。この  
セミナーを通じてシスメックスは最新の学術情報を提供  
するとともに、各国の医療の発展を担う方々と情報を  
交換し、各国が抱える医療の課題やニーズを掴む場と  
しても活用しています。 ※中国を含む

## 多様な医療ニーズを秘め、今後も 医療への投資が期待される地域です。

オセアニアから東南アジア、南アジアまで、20カ国以  
上をカバーする当地域の最大の特徴は、医療ニーズの  
幅広さでしょう。オーストラリアやシンガポールのように、  
欧米先進国と同等レベルに医療が発達した国もあれば、  
経済発展とともに医療インフラが整備されつつある国も  
あります。このように国ごとに医療環境が大きく異なる  
市場において、今後の成長が特に期待されるのは、やはり  
新興国です。例えば日本のGDPに対する医療費は  
8.3%ですが、日本よりも人口の多いインドでは4.2%、  
インドネシアでは2.4%とまだまだ低く、今後の医療に  
対するさらなる投資の伸びが期待されます。

(左上図「人口とGDPに対する医療費」参照)

これから市場の成長  
が期待できそうな  
地域ですね。



## ポイント2 シェアNo.1の秘訣！ 時差8時間をカバーするネットワーク

西はパキスタンから東はニュージーランドまで、時差は  
8時間。この広大な地域をカバーする販売・サービス&  
サポート体制を整備することで、シスメックスはシェアを  
拡大してきました。2011年には経済成長と  
ともに医療の質も高まりつつあるフィリピン  
を直販化。インドネシアやマレーシアなど  
ASEAN主要6カ国\*を含む9カ国に現地  
法人を保有することになり、事業基盤をさらに  
強化しました。

シンガポールとインドには試  
薬生産拠点を設け、市場での  
需要増加に対応しています。



シスメックス フィリピン

- 統括拠点
- 販売拠点
- 試薬生産拠点
- 研究開発拠点

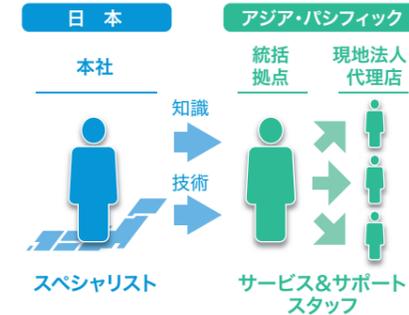
※中国には別拠点を  
設けています。

## ポイント3 本社直伝のトレーニングで 高い顧客満足度を実現

機器のメンテナンスなどに的確に対応するため、現地のサービス&  
サポートスタッフは日頃からトレーニングを積み重ね、顧客満足度の  
向上に努めています。新製品が発売された時などは、まず統括拠点  
(シンガポール)のスタッフが日本の本社のスペシャリストから直接  
トレーニングを受講。その後、今度は彼らが講師となり、地域内の現地  
法人や販売代理店のスタッフに習得した知識や技術を伝えています。

技術研修には各国からサー  
ビス&サポートスタッフが  
統括拠点に集まり、情報を  
共有しています。

トレーニングで得た知識や  
技術をもとに、各スタッフが  
メンテナンスなどを行いま  
す。



現地従業員の声  
シスメックス  
アジア・パシフィック  
テクニカルサポート部門  
エンジニア  
チェウ クイ ジェン  
**Chew Kui Jien**



シスメックスはアジアの成長力に着目し、1994年に  
シンガポールに駐在員事務所を設立するなど、いち早く  
事業基盤の整備を進めてきました。その結果、現在では  
業界トップクラスの販売・サービス&サポート体制を保有し、  
幅広い製品ラインアップによって、それぞれの国のニーズ  
に合わせた販売・サービス活動を行っています。

## 広く医療に貢献する活動が 当社のブランドイメージを高めています。

新興国の中には医療費が治療に優先的に配分され、  
検査が十分に実施されていない国や、医療インフラの整備  
とともに検査が実施されていないながら、正しい検査結果を  
保証するための精度管理が不十分で、さらなる検査の質

の向上が必要な国もあります。  
そこで、シスメックスはそれぞれの国の特性に合った  
学術資料の提供や学術セミナーの開催を通じて、検査の  
重要性を啓発する活動をはじめ、各国の検査の精度管理や  
標準化を支援する活動なども行っています。このように広く  
検査の質の向上に貢献する活動は、製品の品質の高さと  
相まって、シスメックスのブランドイメージを高めています。

今後は、現在シェアNo.1を獲得しているヘマトロジー  
分野に加え、ノンヘマトロジー分野\*での機器・試薬の品揃  
えも拡充します。地域のニーズに合った製品を展開するこ  
とで、アジアの検体検査市場における総合サプライヤーを  
目指すとともに、引き続きアジア・パシフィック地域の医療  
の発展に貢献していきたいと考えています。

\*ASEAN主要6カ国：インドネシア、マレーシア、フィリピン、シンガポール、タイ、ベトナム。

\*ノンヘマトロジー分野：血液凝固検査、免疫検査、尿検査、生化学検査などのヘマトロジー分野以外の検体検査分野。



	人口※1	GDPに対する医療費(2009年)※2
インド	約12億人	4.2%
インドネシア	約2億4,000万人	2.4%
フィリピン	約9,000万人	3.8%
タイ	約7,000万人	4.3%
日本	約1億2,000万人	8.3%

日本と比較してGDPに対する医療費が低い国々  
今後のさらなる医療への投資が期待される

アジア・パシフィック  
地域の将来性について  
私が解説します！

シスメックス アジア・パシフィック  
CEO  
フランク ブッシャー  
**Frank Buescher**

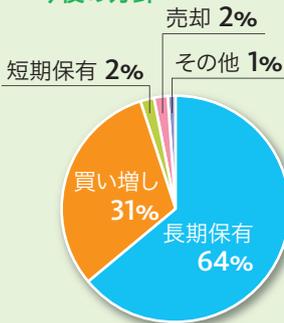
それぞれの国・地域に応じた販売・サー  
ビス&サポート体制を整備することで売上  
を伸ばしてきました。新興国における  
市場の拡大と事業体制の一層の強化に  
より、着実に成長を続けていきます。

\*ヘマトロジー分野：血液中の赤血球や白血球などの数や種類、大きさを分析することにより、精密な検査が必要かどうかを判断するための検体検査分野。

## 株主様アンケートのご報告

前号の株主通信にて実施したアンケートにご協力いただき、誠にありがとうございました。ご要望や激励のお言葉などを多数いただき、IRスタッフ一同にとって大きな励みとなっています。皆様から頂戴したご意見を、今後の事業活動や株主通信の作成に活かしてまいります。

### ●当社株主についての今後の方針



## 自由ご記入欄

- 今後も国内はもちろん、海外での積極的な活動に期待しています。(60代、男性)
- 社長から経営戦略や今後の計画について教えてもらいたい。(50代、男性)
- この円高にも関わらず、好業績を上げているのに驚かされました。(70代、男性)
- 株主通信は、デザイン、テーマともに分かりやすく内容が集約されている。特集テーマは読む意欲をそそって良かった。(20代、女性)

IRウェブサイトにて社長の家次による個人投資家様向け会社説明会の映像を公開中です。ぜひご覧ください。



シスメックスのトップページから

株主・投資家の皆様へ > IR資料室  
> 個人投資家様向け会社説明資料

今後もさらなる情報の充実に努めてまいります。

## 「2011年度 IR 優良企業賞」を受賞

「IR優良企業賞」は、IRの趣旨を深く理解し、積極的取り組み、市場関係者の高い支持を得るなどの優れた成果を上げた企業を日本IR協議会が選定し表彰するもので、今年で16回目を迎えます。当社は2004年度(IR優良企業奨励賞)、2006年度(IR優良企業賞)に続いて3回目の受賞となりました。今後も、株主・投資家の皆様に対し、公平、迅速、正確、そして分かりやすい情報開示を基本姿勢に、より密なコミュニケーションを通じて、企業価値向上につながるIR活動を推進してまいります。



表彰式の様子  
(右：社長の家次)



表紙について...

【ボロブドゥール遺跡(インドネシア)】  
インドネシアはアジア・パシフィック地域における売上高が最も高く、今後の成長が期待できる国です。

## 会社概要

(2011年12月31日現在)

■商号	シスメックス株式会社 SYSMEX CORPORATION	■格付け	A (R&I: 格付投資情報センター)
■設立年月日	1968年2月20日	■従業員数	4,529名(連結) 1,777名(単独)
■資本金	91億3,690万円	■主な事業内容	臨床検査機器、検査用試薬ならびに関連ソフトウェアなどの開発・製造・販売・輸出入

## 株主メモ

■事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで	■上場証券取引所	東京証券取引所市場第1部 大阪証券取引所市場第1部
■定時株主総会	6月	■証券コード	6869
■基準日	定時株主総会 3月31日 期末配当金 3月31日 中間配当金 9月30日	■単元株式数	100株
■公告方法	その他有必要がある場合は、あらかじめ公告いたします。	■株主名簿管理人・特別口座の口座管理機関	〒100-8212 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
	当会社の公告方法は、電子公告とします。	■同連絡先(郵便物送付先・電話照会先)	〒541-0044 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 電話 0120-094-777 (通話料無料)
	ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。		
	電子公告掲載ホームページアドレス <a href="http://www.sysmex.co.jp/ir/">www.sysmex.co.jp/ir/</a>		

### お知らせ

1. 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることになっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。 2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店でもお取り扱いいたします。 3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。